



# 歴史を学ぶ



=古墳の好きな生徒必見=

内野古墳めぐりで、地元の歴史・文化を知ろう！！

**10月30日、開催されました！**

10月30日（日）に延期されていた内野古墳めぐりが開催されました。「小野口の会」の方の御協力を得て開催されました。まずは、二本ヶ谷積石塚古墳群からスタート。



二本ヶ谷積(にほんがやつみ)石塚(いしづか)古墳群は、礫(れき)（河原石(かわらいし)）を積み上げて墳丘を築く古墳が谷間に群集する全国的にも貴重な遺跡であり、方墳が多いのが特徴。一辺 5m 前後と小型で最大のもので一辺 9m 程度。墳丘に使う石は 10~40cm ほどの丸い石。副葬品は全体的に少なく、鉄製武器、勾玉などの装飾品類が出土。日本国内には土を盛る古墳がほとんどで、積石塚はとても珍しい。一部は朝鮮半島の積石塚と類似することから渡来人の墓と考えられる。と、ここまで紙芝居を使って説明を受けました。

また、この遺跡は、浜名中学校の卒業生が発見のきっかけとなったとも伺いました。浜名中の大先輩のおかげだったと聞き、驚きました。

二本ヶ谷積石塚遺跡群はここ



続いて内野古墳群を「稲荷山古墳」「山の神古墳」「赤門上古墳」と巡りました。稲荷山古墳と山の神古墳は円墳、赤門上古墳は前方後円墳であると説明を受けました。特に、赤門上古墳は、浜松市内で2番目に大きく全長56.3mもあることを知りました。またそれぞれの名前の由来についても伺いました。「赤門上」とは、近くにあったお寺、龍泉院には赤い門があったそうで、そこから別名「赤門寺」と呼ばれていたそうです。その寺がこの古墳の名前の由来だそうです。



最後に参加者皆さんで記念写真を撮りました。とても有意義な時間を過ごせました。以下は参加した生徒たちの感想です。



私はこの古墳めぐりに参加して、古墳への興味が深まるとともに、自分の住む浜松という地域にも関心を持ちました。小学校の時にも古墳の説明を聞いたことがありましたが、今回は説明をじっくりと聞き、もっと知りたいと思うようになりました。今までとは違う自分を発見できたことに自分自身も驚きましたが、このような経験ができとてもうれしかったです。また、浜松という地域を知るきっかけにもなり、とても良い経験となりました。歴史を知ることが、自分達の地域を知ることにつながっていて、古墳めぐりに参加してとても良かったと思いました。貴重な体験ありがとうございました。



僕らの身近にはいろいろな種類の古墳があることを知りました。二本ヶ谷積石塚古墳群に渡来人が埋葬されていたと知りました。石塚は普通ならば山の上にはできるが、この場所だけ、山の上ではないのに石塚ができていることに疑問を持つとともに、古墳に対してとても興味がわきました。この古墳めぐりを通して興味を持つことができたのは、僕にとって大きな成長だと思います。コロナウイルス感染症が流行している中、古墳めぐりを行ってください、ありがとうございました。

僕はもともと古墳が好きで、古墳の種類や形などに興味がありました。今回参加してみて、小野口の会の皆さんに自分の知らなかった一つ一つの古墳の歴史や形状を細かく丁寧に教えていただき、とても勉強になりました。小野口の会の皆さんは気軽に話しかけやすく、いろいろと質問することができました。今回の古墳めぐりへの参加を通して、古墳にもっと興味がわいてきました。

